蔵漢訳『阿閦仏国経』に記される触地の様相

佐藤 直実

《本発表の目的》
東方・妙喜(skt. Abhirati)世界を主宰する阿閦(skt. Akṣobhya)仏の印相の由来や意味について考察する。

①阿閦仏の図像　※降魔/触地印＝釈尊の降魔成道時の印相と同じ

【図 1】『ナルタンの 500 図像集』より[i]

【図 2】 ウダヤギリ仏塔（8 世紀）[ii]

②釈尊の触地印(bhūmisparśamudrā)

大乗経典『ラリタヴィスタラ』(普曜経、方広大荘厳経) AD.2-6c　※右手で大地に触れる
律典『サンガベーダヴァスツ』(根本説一切有部毘奈耶破僧事) AD.3c　※大地に触れる
仏伝『ニダーナ・カター』(ジャータカの序文) AD.4-5c　※手で大地に触れる

ラリタヴィスタラ（P.L.Vaidya ed., *Lalita-vistara*, Buddhist Sanskrit Text No.1, 1891. p.232-233）

atha bodhisattvo māraṃ māraparṣadaṃ ca maitrīkaruṇāpūrvaṃgamena cittena sphuritvā siṃhavadabhīto 'nuttrasto 'stambhī adīno 'līnaḥ asaṃkṣubhito 'lulito vigatabhayalomaharṣaḥ śaṅkhadhvajamīnakalaśasvastikāṅkuśacakrāṅkamadhyena jālāvitānāvanaddhena suruciratāmranakhālaṃkṛtena mṛdutaruṇasukumāreṇānantakalpāparimitakuśalamūlasaṃbhāropacitena dakṣiṇena pāṇinā sarva-kāyaṃ parimārjya salīlaṃ mahīṃ parāhanati sma / tasyāṃ ca velāyāmimāṃ gāthāmabhāṣat -

iyaṃ mahī sarva jagatpratiṣṭhā apakṣapātā sacarācare samā /
iyaṃ pramāṇā mama nāsti me mṛṣā sākṣitvamasmiṃ mama saṃprayacchatu // Lal_21.88 //

saṃspṛṣṭamātrā ceyaṃ mahāpṛthivī bodhisattvena ṣaḍvikāramakampat prākampat saṃprākampat / araṇat prāraṇat saṃprāraṇat / tadyathāpi nāma māgadhikānāṃ kāṃsapātrī kāṣṭhenābhyāhatā raṇatyanuraṇati, evameveyaṃ mahāpṛthivī bodhisattvena pāṇitāḍitā raṇatyanuraṇati sma /…

方広大荘厳経（大正 3p.594c20-595a1）

時魔波旬語菩薩言。我昔修善汝所能知。汝之累徳誰信汝者。爾時菩薩徐擧右手以指大地。

法顕伝（大正 51 p863b6-11）

菩薩起行離樹三十歩。天授吉祥草。菩薩受之。復行十五歩五百青雀飛來繞菩薩三匝而去菩薩前到貝多樹下。敷吉祥草。東向而坐。時魔王遣三玉女從北來試。魔王自從南來試。菩薩以足指案地。魔兵退散三女變成老母。

方等般泥洹經卷下(T12 p.924b8-11)

於是世尊。於師子床上右脇倚臥。如師子無恐懼。大尊雄周觀十方。以足指案地六返震動十方境界。佛即如其像三昧正受。一一毛孔出恒邊沙等數之光明。一一光明炤恒沙等佛國。一一光明。

維摩詰經(T14 p.520c7-9)

於是佛即以足指案地。此三千大千世界皆爲震動。若干百千珍寶積嚴處處校飾。

	文献	図像	意味
釈迦の触地形	(右)手／足／不定	右手五指	・過去の布施行の真実性の証明 ・不動性の強調

図３　降魔成道図　ガンダーラ出土（2 世紀）
ペシャワール博物館 No.2027（田中公明先生撮影）

▶釈尊の触地印の由来：

成道直前、魔王に対して自分の過去世の善行を証明するために地天を呼び出した時のしぐさ

▶釈尊の触地印の意味：

魔王の攻撃を排斥する釈尊の「不動なる決意=不動心」を象徴している

③阿閦の意味

（skt.）Akṣobhya「揺れ動かない」（漢訳）不動、無怒など（tib）mi 'khrugs pa

「成道への決意が揺るぎない」「怒りや畏れに心を動かさない」➡ 不動心

④他土仏・東方仏

・大乗仏教の最初期に登場。西方極楽世界の阿弥陀仏と対をなす他土仏[iii]。

・四方四仏の東方仏（『金光明経』など[iv]）、金剛界五仏の東方仏（『初会金剛頂経』など）[v]

⑤資料紹介　初期大乗経典

〈インド原典〉現存しない　* ***Akṣobhyatathāgatasya (buddhakṣetra-)vyūha-sūtra***[vi]

※カローシュティー文字で書かれたガンダーラ語写本が発見されているが同一ではない[vii]

〈漢訳〉

支婁迦讖訳『阿閦仏国経』全 5 章（=支讖訳）AD2c 大正 no.313　※右指
菩提流志訳『大宝積経 不動如来会』全 6 章（=流志訳）706 年 大正 no.310-6　※足指

〈チベット語訳〉

Jinamitra, Surendrabodhi, Ye shes sde 訳, *'Phags pa de bzhin gshegs pa mi 'khrugs pa'i bkod pa zhes bya ba theg pa chen po'i mdo*, 全 6 章（=***JSY***）9 世紀初頭[viii]　※右足親指

⑥ 阿閦仏の発心と誓願

・妙喜世界の教主・大目（広目, spyan chen po）如来のもとで修行

・大目如来の「六波羅蜜」を聞き、発心・誓願（十悪の戒め、十二頭陀行の遵守など）

⑦ 触地の記述

支讖訳　乃作是結願。若使不退轉者。當以右指案地令大震動。爾時阿閦菩薩。應時承佛威神。自蒙高明力乃令地六反震動。（大正 11 巻, p.753a18-）

流志訳　大士。若此誠心不退至言無妄者。願以足指搖動大地。時不動菩薩。以佛威神及本願善根力故。令彼大地六種搖動。所謂動。大動。遍動。搖。大搖。遍搖。（大正 11 巻, p.103a19-）

JSY　*skyes bu dam pa khyod kyis dam bcas pa 'di gal te yang dag pa'i smon lam yin żing / bla na med pa yang dag par rdzogs pa'i byang chub [P12a8] las phyir mi ldog par 'gyur pa'i yang dag pa yin na bden pa dang / bden pa'i tshig 'dis [D10b5] rkang pa g-yas pa'i mthe bos stong gsum gyi stong chen po'i 'jig rten gyi khams kyi sa chen po 'di g-yo ba dang / rab tu [P12b1] g-yo ba dang / kun tu rab tu g-yo ba dang / 'gul ba dang / rab tu 'gul ba dang / kun tu rab tu 'gul ba dang / ldeg pa dang / rab tu ldeg pa dang / kun tu [D10b6] rab tu ldeg par byos śig / śa ra dwa ti'i bu de nas [P12b2] byang chub sems dpa' sems dpa'chen po mi 'khrugs pa des / de'i tshe sangs rgyas kyi mthu dang / rang gis bden pa'i dam bcas pa'i dge ba'i rtsa ba'i stobs bskyed pa des / rkang pa g-yas pa'i mthe bos [P12b3] stong gsum gyi stong chen po'i [D10b7] 'jig rten gyi khams kyi sa chen po 'di rnam pa drug tu g-yos bar byas te /g-yos rab tu g-yos / kun tu rab tu g-yos / 'gul / rab tu 'gul / kun tu rab tu 'gul / ldeg / rab tu ldeg / [P12b4] kun tu rab tu ldeg par byas so //*

（佐藤直実『蔵漢訳『阿閦仏国経』研究』2002 年度学位提出論文服論文 p.22 1.71）

▶阿閦の触地印の由来：

・ある比丘に自分の誓いを証明するために大地を震動させるためのしぐさ
・ただし、「手を地につける」という記述はなく、正確な由来は不明

▶阿閦の触地印の意味：

誓願の真実性を証明するため

	文献	図像	意味
阿閦の触地形	右指／足指／右足親指	右手五指	・誓願の真実性の証明
釈迦の触地形	(右)手／足／不定	右手五指	・過去の布施行の真実性の証明 ・不動性の強調

⑧まとめ

・大地に触れるしぐさ（触地）には手と足がある。

・手で大地に触れるしぐさは「触地印」という印相として定着。

・触地印は、釈迦の降魔成道を表すことから、降魔印とも呼ばれる。

・触地印は、阿閦仏を示す印相ともなる。

・釈迦の触地印の由来は、大地女神を呼び出すために右手を大地につけるという逸話

・釈迦の触地印の意味は「過去の善行の真実性を証明するため」と「不動性の強調」の２つ

・阿閦の触地印は『阿閦仏国経』の逸話をそのまま具象化したものではない

・阿閦の触地印の意味は「誓願の真実性の証明」

▶阿閦仏の触地印の由来の可能性

１）未発見の右手を大地につける伝承が存在していた

２）足の図像が制作しにくかったため、手に変更した

３）釈迦の触地印が先に定着しており、その「不動性」のイメージが、阿閦仏の「不動性」というイメージと重なり、転用された。

---

[i] M. Tachikawa, M. Mori, S.Yamaguchi, *Five hundred Buddhist Deities*（五百尊図像集）国立民族学博物館, 1995.

[ii] 森雅秀『インド密教の仏たち』（春秋社,、2001 年）p.20 図４。

[iii] 他土仏もしくは他方仏とは、娑婆世界以外の世界を主宰する仏を指す。他土仏信仰の展開については、田中公明『仏教図像学–インドに仏教美術の起源を探る』（春秋社、2015 年）p.138-154 に端的にまとめられている。

[iv] 田中公明[2015: p143]は、四方四仏を表現した最初の作例は、5 世紀前半にサーンチー大塔の基壇部に安置された四仏ではないかと推測している。なお、密教の四仏と直接関係をもと大乗経典は『金光明経』であるが、四方四仏の起源や展開については、田中公明『インドにおける曼荼羅の成立と発展』（春秋社、2010 年）p.48-54 並びに頼富本宏『密教五仏の研究』（法蔵館、1990 年）参照。

[v] 阿閦仏を密教五仏として定着させ、その印相を「触地印」と記すのは密教経典『初会金剛頂経』である。前掲著や、森雅秀『インド密教の仏たち』（春秋社、2001 年）p.70-71、『金剛頂経の研究：梵蔵漢対照、梵本校訂篇』（密教文化研究所、1983 年）§285 参照。

[vi] サンスクリットの題名は、チベット語訳や漢訳資料から、Akṣobhyatathāgatasya (buddhakṣetra-)vyūha-sūtra（阿閦如来の［仏国土の］荘厳経）と推定される。佐藤直実『蔵漢訳『阿閦仏国経』研究』（山喜房佛書林,、2008 年）p.6-7 参照。

[vii] 同本ではないが、カローシュティ文字で書かれたガンダーラ語の写本は発見されている。詳細は次の資料に詳しい。Ingo Strauch, The Bajaur collection: A new collection of Kharoṣṭhī manuscripts – A preliminary catalogue and survey –, online version, 2007.

[viii] 北京版 no.760-6, デルゲ版 no.50 など全部で 12 本ある。また、*JSY* と異なる系統として、敦煌出土の断片が 1 フォリオ、タボ寺出土の断片が 3 種類発見されている。また、アルチ寺（13 世紀以降）には第 2 章の一部が記される碑文があり、K. Tropper 訳 *Die Akṣobhyavyūhasūtra-Inschrift in Alchi (Diplomarbeit zur Erlangung des Magistergrades an der Geisteswissenschaftlichen Fakultät der Universität Wien)*, Wien, 1996 に全文とドイツ語訳が記される。また、*JSY* には注釈書と典籍がある。Co ne Grags pa bshad sgrub 著、*Rgyal ba mi 'khrugs pa'i zhing la rnam par lta ba byed* (*Mi 'khrugs pa'I zhing bkod smon lam bla rnal sogs*)（18 世紀初頭）、Co ne Grags pa bshad sgrug 著、*Mi 'khrugs pa' zhing mchog sgo 'byed*（18 世紀初頭）。 詳細は、佐藤直実『蔵漢訳『阿閦仏国経』研究（山喜房佛書林, 2008 年）, p.4, 71-98 参照。

〈略号表〉

大正＝『大正新脩大蔵経』大蔵出版, 1924-1934 年

P＝ 北京版、**D**＝デルゲ版